

新時代への挑戦



三豊市長

横山 忠 始

新年あけましておめでとうございます。
本年が皆さまにとりまして、充実した一年でありまして、心よりお祈り申し上げます。

三豊市も誕生して6年目に入ります。合併以来、集中して取り組んで参りました行財政改革も市民皆さまのご理解とご協力のおかげで、一定の成果が出てまいりましたので、いよいよ次のステージに向かって強力に歩みを進めて参ります。まず、昨年の広報12月号

でご報告しましたように、徹底して三豊市の知名度向上に努めます。三豊市の知名度はゼロからのスタートですが、市民活動、文化財、史跡、美しい山や海、おいしい物産等を関東・関西三豊市ふるさと会をはじめさまざまなネットワークを利用して、みなで力をあわせて市外にアピールしたいと思います。

本年は、長い間議論し検討をして参りました給食調理場問題、学校の適正規模の問題も議会や市民の皆さま

まのご意見を伺い、具体化して参ります。また、子育て支援を一層強化していく中で、幼稚園・保育所のあり方も具体化していきます。バイオマスタウン推進室を昨年発足し、竹をはじめ三豊の自然資源の有効活用を図ります。ごみ処理問題も「ごみではなく資源」であるという考え方のもと、バイオマスの一環としてとらえて参ります。

少子高齢化・核家族化はさらに進み、介護問題は社会の一層の支援を必要とし

ています。同時に子育て中の若い世代も、子育ての経験情報が不足する中、社会の温かいまなざしと支援を必要としています。社会全体が以前よりも温かく支えあう気持ちを強めていくべき時代だと思っています。

一方で、世界に目をやると、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をはじめ、世界は基準の統一化の方向に急速に向かつております。マーケットが日本から世界に広がった時代に入ってきたと思います。三豊市も日

本の地方都市であると同時に世界の地方都市であるという自覚を強め、新国際化時代に向かつて参ります。

厳しい時代といわれますが、視点を変えれば新しい可能性にあふれた時代だと思えますので、みなで力を合わせて支えあい、絆を強めて、笑顔で、新時代に挑戦しましょう。

今年一年のご多幸をお祈りいたします。

みんなが期待を持てる三豊市へ



三豊市議会議長

近藤 久 志

市民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。平成23年が皆さまにとって、希望の年になることを願い、三豊市議会を代表いたしまして、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

平素より、議会活動ならびに市政全般に対し、市民の皆さまから寄せられた温かいご指導やご厚情に対し厚くお礼申し上げます。さて、昨年からの国際情勢は、皆さまもご承知のとおり、尖閣諸島問題に加え、北朝鮮による韓国砲撃のため、朝鮮半島をはじめとす

る東アジア地域の情勢は、一気に緊迫度を増しております。また国内においても、ねじれ国会による政権運営が混乱を来し、地方行政に非常に大きい影響を与えております。

そのような中、国においては、地方が自らの判断と責任の下で行財政運営を行うことができる仕組みを構築することを目的とした、地域主権改革の動きがあります。また三豊市においては、2年前に新総合計画を策定し、それに基づく事業の実施を図っておりますが、

これからは、国際化や地域主権改革も視野に入れ、政治経済の変化等、時代にあつた施策の展開が必要と考えております。

地域主権改革の推進を図るため、住民参加、住民自治の強化をお願いするとともに、一方では、県下他の7市との協力と連携による提案型まちづくりを目指す所存であります。

昨年1月の選挙により、議員の顔ぶれも変わりました。我々市議会といたしましては、市民の皆さまの負託に応え、その機能を発揮

できる議会を目指すため、更なる研鑽を行うとともに、懸案事項の実現のため、市民の目線に立ち、議員全員、情報の共有を図りつつ最大限の努力を傾注してまいり所存でありますので、本年におきまして、何とぞ市民の皆さまのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今年一年が皆さまにとって、実り多き年でありますことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

三豊市議会									
議長 近藤 久 志									
副議長 三宅 静 雄									
議員									
多田 治	坂口 晃一	宝城 明	横山 強	為広 史	瀧本 文子	香川 努	小林 照武	小田 偕和	大平 俊樹
三木 秀樹	城利 文	近藤 賢司	山本 明	金子 辰男	岩田 秀樹	詫間 政司	川崎 秀男	藤田 公正	前川 勉
西山 彰人	込山 文吉	水本 真奈美	浜口 恭行						